

# 2007 年度事業報告

## 1 . 2007 年度総括：2007 年度方針とふりかえり

### (1) 2007 年度基本方針

- 加盟団体のニーズを踏まえた新規事業開発・既存事業改善をおこなう
- 財政 / 運営態勢見直しを踏まえた財源の多様化・自主財源の開発をおこなう
- 2006 年度にやり残した課題を完了する
- ・ガバナンスの改善：現実的に動く意思決定プロセスを構築する
- ・関西 NGO 大学見直し

### (2) ふりかえり

加盟団体のニーズを踏まえた新規事業開発・既存事業改善をおこなう  
2006 年度に実施した「ネットワーク再構築」、「NGO 研究会」を通じて把握した加盟団体へのニーズ調査を基に、新規事業の開発や既存事業の改善を実施した。例えば、他団体との交流の機会を求める声に応じて、ネットワークミーティング（例会・拡大学習会）を神戸や京都で開催し、地域の加盟団体の交流の機会をつくったり、設立 20 周年記念として加盟団体合同で写真展を実施した。この 20 周年記念事業加盟団体合同写真展「子どもをとおして見る世界」は、久しぶりに加盟団体と一緒に作りあげるイベントとなり、ネットワークと加盟団体が合同で市民にアピールできる場として好評だった。（詳細は、以下の「2 . 各事業の内容」の(1)ネットワーク活動を参照のこと）

財政 / 運営態勢見直しを踏まえた財源の多様化・自主財源の開発をおこなう  
財政 / 運営態勢見直しを踏まえた財源の多様化・自主財源の開発については、（特活）アユス = 仏教国際協力ネットワーク（以下、アユス）の NGO 人材支援を受けたことを契機として、本格的に組織基盤の強化に取り組み始めた。組織基盤強化の柱は、自主財源の開発である。具体的には、新規会員（団体・個人）の開拓、政策提言に用途を限定したプログラム寄附に加え、設立 20 周年記念活動に伴う協賛・寄附の募集を実施した。本格的なファンドレイズをおこなったことで、課題も見えてきた。新規会員団体の開拓や募金の際にどのような団体、どんなセクターとつながりをもつのかなど、中長期的な方針がないことで場当たりの対応しかできず、中期計画の必要性を実感した。中期計画を作成することで、活動の力点をどこにおくかを明らかにし、効果的な人員・コストの配分が可能になり、事後の評価や見直しも可能になる。

2006 年度にやり残した課題を完了する  
ガバナンスの改善に向けて、規約やマニュアルの整備に着手した。関西 NGO 大学見直しについては、2008 年度に予定している中期計画の策定後に実施する見込みである。

その他  
無給スタッフの有給化と社会保険の整備をおこない、事務局スタッフの労働環境の改善に努めた。

## 2 . 各事業の内容

### (1) ネットワーク活動

#### ネットワークミーティング（例会・拡大学習会）

##### 第 1 回

日時：2007 年 7 月 7 日（土）14:00 ~ 16:30  
会場：新大阪丸ビル新館 611 会議室  
出席者：加盟 NGO6 団体 6 名、個人会員 1 名、その他 NGO4 団体 5 名、事務局 4 名（職員 2 名、NGO 専門調査員 1 名、ボランティア 1 名）  
学習会テーマ：「NGO の人材育成とは」  
ファシリテーター：山崎 唯司さん（JICA 地球ひろば市民参加協力アドバイザー）  
パネリスト：  
・酒井 保さん 日本国際飢餓対策機構  
・森本 のり子さん（特活）テラ・ルネッサンス  
・宮下 和佳（特活）関西 NGO 協議会  
JICA・（特活）国際協力 NGO センター共催の NGO 向け研修説明会と合同で開催した



第 1 回ネットワークミーティング

##### 第 2 回

日時：2007 年 9 月 28 日（金）18:30 ~ 21:00  
会場：神戸 YMCA

出席者：加盟 NGO11 団体 14 名、その他 NGO2 団体 2 名、事務局 5 名（職員 2 名、NGO 専門調査員 1 名、ボランティア 1 名、インターン 1 名）  
学習会テーマ：「Rights Based Approach」  
事例発表者：和田 美穂さん（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

#### 第 3 回

日時：2007 年 12 月 10 日（月）17:30～19:50

会場：大阪 YWCA

出席者：加盟 NGO5 団体 10 名、JICA 研修員 13 名、JICA 研修管理員 1 名、その他 NGO1 団体 1 名、事務局 3 名（職員 1 名、NGO 専門調査員 1 名、ボランティア 1 名）

学習会テーマ：グローバリゼーションの中の地域～JICA-NGO 連携による実践的参加型地域開発コースとの協同プログラム～

ファシリテーター：木川 こずえさん ポレポレスタジオ

#### 第 4 回

日時：2008 年 2 月 29 日（金）18:30～21:00

会場：京都 YMCA

出席者：加盟 NGO4 団体 4 名、その他 NGO4 団体 4 名、事務局 3 名（職員 2 名、NGO 専門調査員 1 名）

学習会テーマ：NGO にとっての提言活動とは

発題：加藤 良太さん（特活）関西 NGO 協議会個人会員・提言専門委員

ファシリテーター：山本 知恵さん（財）京都 YWCA

例会・拡大学習会は、今年度から名称を「ネットワークミーティング」と改めた。遠方の団体に配慮し、加盟団体（神戸 YMCA・京都 YMCA）の協力を得て、神戸・京都でも開催した。各地域の団体が集まる機会となった。

#### 20 周年記念事業加盟団体合同写真展「子どもをとらえてみる世界」

期間：2007 年 11 月 26 日（月）～12 月 3 日（月）

会場：みちまちスクエアきた（大阪市北区梅田 1-1-7 国道 2 号地下 2 階）

来場者（ブックレット配布数）：662 名

設立 20 周年記念事業として、加盟団体合同で写真展を開催した。会場では、来場者が後日関心を持った団体にコンタクトできるよう加盟団体の活動を紹介するブックレットを作成し、配布した。また、実際の写真展と並行して、インターネット上の 3D 仮想空間「セカンドライフ」内でも写真や映像の展示をおこなった。このプログラムの成果は、加盟団体が参加できる形で記念事業を企画・実施できたことと関西 NGO 協議会として初めて本格的にプログラムへの協賛・寄附を募ったことである。また、セカンドライフへの参加など、ボランティアの尽力で活動が新たな広がりを持てたことも大きな成果であった。



セカンドライフ内で開催された写真展の様子

#### アカウンタビリティセミナー

セミナー「『信頼できる NGO』になろう ～アカウンタビリティが NGO を成長させる～」

日時：2007 年 7 月 21 日（土）13:30～17:30

会場：京都産業会館 レンタルスペース第 1

出席者：加盟 NGO4 団体 7 名、その他 NGO6 団体 10 名、事務局 4 名（職員 3 名、NGO 専門調査員 1 名）

全体コーディネーター：伊藤 公男さん（特活）関西 NGO 協議会個人会員

講師：

- ・新田 和宏さん 近畿大学生物理工学部教員、地球市民教育総合研究所長
- ・松吉 徹也さん 松下電器産業株式会社 社会文化グループ
- ・和田 美穂さん（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

前半は、グループ・ディスカッションと講義でアカウンタビリティの必要性を確認した後、模擬コンペ（団体ドナーを対象と想定したプレゼンテーションの実践）をおこない、団体ドナーに対するアカウンタビリティのポイントを学んだ。後半は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの具体例を通して、個人ドナーに対するアカウンタビリティのポイントを学び、最後に団体運営や活動サイクル全体の中でアカウンタビリティを実践していくシステムづくりを考えた。

シンポジウム「アカウンタビリティの世界的潮流 - 市民セクターの信頼と責任 - 」

日時：2007年11月16日(金)13:00~17:20

会場：JICA兵庫国際センター

出席者：NGO6団体8名、企業1社1名、事務局1名(NGO専門調査員1名)

総合司会：下澤嶽氏 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター事務局長

兵庫会場モデレーター：新田和宏氏 近畿大学生物理工学部教員、地球市民教育総合研究所長

講師・パネリスト：

- ・松原 明さん シーズ=市民活動を支える制度をつくる会事務局長
- ・黒田 かをりさん CSOネットワーク共同代表
- ・轟木 洋子さん 世田谷ボランティアセンター
- ・本木 恵介さん (特活)かものはしプロジェクト共同代表
- ・山口 誠史さん (特活)シェア=国際保健協力市民の会事務局長
- ・渡辺 元さん (特活)市民社会創造ファンド・運営委員、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・教授
- ・鈴木 真里さん アジア・コミュニティ・センター 21(ACC21)事務局長

第1部(アカウンタビリティにかかる問題提起)で、国内・海外においてNGOのアカウンタビリティを取り巻く環境が変化してきている現状を概観した後、第2部(事例報告)では、アメリカ・日本国内で、NGOが自らアカウンタビリティ基準を設定するなどの取り組みをしている事例を聞いた。最後に第3部(パネルディスカッション)において、NGOに今後求められるアカウンタビリティについて考えた。

#### 2008 セーフ・トラベル・セミナー大阪

日時：2008年3月22日(土)14:00~17:00

会場：(財)大阪YWCA 2階会議室

参加者数：NGO関係者14名、大学関係者8名 オブザーバー1名 講師1名 事務局6名

テーマ：「海外スタディツアーにおける感染症の予防・対策」

目的：スタディツアー関係者が感染症に関する正しい知識を学ぶ機会の提供

主催：(株)マイチケット、(特活)関西NGO協議会

- ・昨年度第1回開催後に、参加者が自主的に情報・経験交流会合を持ったことから、具体的なリスクが明確になり、プログラムにマラリアや狂犬病の事例発表、(特活)アクセスが作成した健康状況管理表の発表を取り入れた。参加者にも好評であった。参加者が感染症に関して漠然と持っていた知識が、医師の説明により裏付けられ、対策や予防に対する理解を深めることができた。
- ・今後、スタディツアーに関する海外旅行傷害保険や法律をテーマとしたセミナーの開催、事例発表等のマニュアル化の要望に対しての対応が課題である。
- ・昨年に比べて参加者数が少なかった。広報について見直しが必要である。

#### その他

- ・加盟団体への情報提供
- 関西NGO協議会の活動状況の報告、各種研修・助成金等の案内などを随時メールニュースで発信した。  
年間のメールニュース発信数：167件

## (2) 政策提言活動

### NGO-外務省定期協議会

#### 【連携推進委員会】

委員：(財)PHD協会

藤野 達也

副委員：

榛木 恵子

#### 第1回

日時：2007年7月6日(金)15:00から17:00

場所：外務省 南庁舎272号室

参加者(委員)：NGO6団体7名、外務省15名

参加者(オブザーバー)：NGO9団体14名、JICA2名、国際機関2名

#### 第2回

日時：2007年11月2日(金)15:00から17:00

場所：外務省 南庁舎893号室

参加者(委員)：NGO6団体7名、外務省13名

参加者(オブザーバー)：NGO9団体13名、国際機関1名

#### 第3回

日時：2008年2月22日(金)15:00~17:00

場所：外務省 南庁舎272号室

参加者（委員）：NGO14 団体 19 名、外務省 17 名  
参加者（オブザーバー）：JICA3 名、その他 1 名

外務省が NGO に期待するところがますます高まってきており、連携方法も多様化している。その連携のあり方について協議されている。すでに連携をしている団体や日常的にも連絡のとりやすい東京近辺の団体の関与が高くなりがちである。地方のネットワーク組織としては、まだ外務省と関係をもっていない団体にも有用なやりとりや情報の入手および地方の NGO の声を届けるよう、心がけていきたい。

（報告：藤野 達也）

#### 【ODA 政策協議会】

コーディネーター：（特活）関西 NGO 協議会個人会員・提言専門委員

加藤 良太

事務局：

瀬良 香織

##### 第 1 回

日時：2007 年 7 月 13 日（金）15:00～17:00

場所：外務省 南庁舎 893 号室

参加者：NGO21 団体 26 名、外務省 15 名、JICA2 名、JBIC1 名、国際機関 1 名

##### 第 2 回 <名古屋開催>

日時：2007 年 11 月 16 日（金）15:00～17:00

場所：地域密着型ビジネス支援施設（COMBi 本陣）内 N106

参加者：NGO16 団体 27 名、個人 3 名、外務省 4 名、JICA1 名、プレス 1 名

##### 第 3 回

日時：2007 年 3 月 6 日（木）15:00～17:00

場所：外務省 講堂

参加者：NGO8 団体 11 名、その他団体・個人 2 名、外務省 11 名、JICA1 名



右：第 2 回 ODA 政策協議会の様子

名古屋には在日ビルマ人の方々が多く、「対ビルマ ODA について」という議題が提案されたこともあって多くの参加者が集まった。外務省担当者と直接意見交換できる場として、活発な議論が交わされた。

#### 【全体会】

コーディネーター：（特活）AM ネット

川村 暁雄

事務局：

榛木 恵子

日時：2007 年 5 月 28 日（月）15:00～17:00

場所：外務省 講堂

参加者：NGO28 団体 43 名、外務省 18 名

オブザーバー：財務省 1 名、JBIC1 名、JICA4 名、国際機関 4 名、プレス 3 名、一般 6 名

2007 年度も、当協議会が事務局を担当し、NGO 側コーディネーターとして提言専門委員の加藤を送り出した。運営面では、実施要項の改訂を行い、全ての NGO とともに個人のオブザーバー参加を明記し、参加の自由度を高めた。一方、参加する NGO の中には、政策協議の当事者意識が欠けたものも見られた。

また、NGO が政策提言の度合いを深める中で、外務省の政策協議全般へのナーバスさと消極性が強まってきた。NGO 側には、外務省を引きつつ政策協議を運用する手腕と、市民社会の考える ODA 像のレールに外務省を乗せていく戦略が「両睨み」で求められている。加えて、NGO 側事務局として当協議会の負担感が増えており、定期協議会という「公共的なインフラ」をどう支えていくか、他のネットワーク NGO やアドボカシー NGO との適切な役割分担を考える時期が来ているといえよう。

（報告：加藤 良太）

JBIC との統合作業の進捗状況に関する報告を受けながら、統合後の NGO と JICA の対話のあり方について協議を重ねた結果、2008 年 10 月の統合以降も、NGO-JICA 協議会という枠組みで定期的な対話の場を設け、より幅広い NGO からの参加や議題提案がなされるような運営をしていく事となった。また、JICA による寄附金募集と NGO への（寄附金収入による）事業委託については、NGO 側から出された意見がほとんど反映されないまま寄附金募集が開始された。

委員：(財)PHD 協会  
委員・事務局：

藤野 達也  
宮下 和佳

#### 第 1 回

日時：2007 年 5 月 25 日（金）14:00～17:00

場所：JICA 本部 11AB 会議室

参加者：NGO（委員）3 団体 6 名、JICA24 名、NGO（オブザーバー）7 団体 8 名、JBIC1 名

#### 第 2 回

日時：2007 年 9 月 15 日（土）14:00～17:00

場所：JICA 兵庫国際センター セミナー室 1・2

参加者：NGO（委員）5 団体 7 名、JICA13 名、NGO（オブザーバー）7 団体 8 名、JBIC3 名

#### 第 3 回

日時：2007 年 12 月 1 日（土）14:00～17:30

場所：JICA 中部国際センター 講堂

参加者：NGO（委員）3 団体 7 名、JICA16 名、NGO（オブザーバー）3 団体 4 名、JBIC2 名

#### 第 4 回

日時：2008 年 3 月 14 日（金）

場所：JICA 本部 11EF 会議室

参加者：NGO（委員）4 団体 8 名、JICA21 名、NGO（オブザーバー）9 団体 9 名、外務省 1 名、JBIC1 名

#### 【連携事業検討会】年間 9 回開催

委員：日本国際飢餓対策機構

清家 弘久

#### 【評価小委員会】年間 5 回の委員会と現地調査を実施

委員：(特活)アクセス - 共生社会を考える地球市民の会

北條 和司

(特活)関西 NGO 協議会個人会員

中田 豊一

#### 【開発教育小委員会】年間 3 回開催

委員：(財)日本クリスチャンアカデミー 関西セミナーハウス（開発教育研究会）

岩崎 裕保

### 「ADB 京都総会に向けた NGO ネットワーク」実行委員会事務局

ADB 京都総会にあわせた国内外 NGO の活動を支援する事を目的として設立された「ADB 京都総会に向けた NGO ネットワーク」の事務局を担当し、主に下記 3 種の活動を行った。

市民への情報普及活動（市民フォーラムの開催、ウェブサイトでの情報発信）

シンポジウムの企画・運営と、複数の団体がセミナー等を開催できるワークショップの運営を行なった。シンポジウムは、日本でほとんど知られていない ADB に関する問題提起という位置づけで、ADB と日本との関係や NGO が提起している課題について紹介した。またワークショップでは、各主催団体が個々の企画を行い、実行委員会はコーディネーションのみを行なった。ワークショップは、テーマを ADB や開発援助に限定しなかった為、幅広いテーマ・スタンスの企画が共存する場となった。また、事務局を設置した関西 NGO 協議会のウェブサイト内に独自コンテンツを設け、事前学習会の案内・報告や関連団体へのリンクなどを掲載した。



シンポジウム「どうおしやす？アジア開発銀行」

#### シンポジウム「どうおしやす？アジア開発銀行」

日時：2007 年 5 月 5 日（土）13:00～17:00

場所：同志社大学今出川キャンパス至誠館

参加者：約 260 名

講師・パネリスト：

- ・田辺有輝 実行委員会、(特活)「環境・持続社会」研究センター(日本)
- ・ヘマンサ・ウィサナゲ NGO Forum on ADB (スリランカ/フィリピン)
- ・ボベット・コラル 国際公務労連 - PSI (フィリピン)
- ・アヌ・ムハマッド 石油・ガス・鉱物資源・エネルギー・港湾プロジェクトに関する全国委員会 (バングラデシュ)
- ・リディ・ナクピル ジュピリーサウス (フィリピン)

#### ワークショップ

日時：2007年5月6日(日)9:30~17:30

場所：同志社大学今出川キャンパス至誠館

参加者：のべ約350名

ワークショップ・タイトル：

- ・アジア・ドキュメンタリー映画上映会
- ・開発と女性：女性のエンパワーメントのために
- ・「不当な債務」ワークショップ：貧困なき世界とグローバル・ジャスティスを目指して
- ・WTO/FTA 下のアジアの経済と人びとの暮らし - 農業・農村を中心に - 1
- ・ADB、気候変動問題の対策促進
- ・グローバル化と格差社会 - 日本における野宿者排除との闘いと国際的連携
- ・アジアの国々における水道民営化と ADB：水道民営化のオルタナティブの可能性を探る
- ・国際ワークショップ/日本の廃棄物輸出政策 3 R イニシアティブと経済連携協定
- ・ADB と自然資源管理
- ・ADB はいらない - 「有識者レポート」の「ニュー・パラダイム」を批判する
- ・9条とアジアの平和
- ・ADB：人々よりも利益を優先 - 電力の民営化とアジアでのたたかい
- ・ツナミ被害の後に ADB 被害がやってきた 国際援助機関が被災者の生活に与えた影響
- ・先住民族と開発

#### メディアへの情報普及活動支援

3回の記者会見を開催した。国内紙の京都支局関係者は記者会見・市民フォーラムへの参加も多く、連日京都面へ記事が掲載された。一方、全国版・海外メディアは、働きかけへの反応がほとんど得られず、記事掲載もごくわずかに留まった。

#### 海外 NGO 関係者のためのロジスティックス支援(宿泊や交通など)

宿泊の手配や交通に関する情報提供を行なった。ゴールデンウィーク中の京都という悪条件であったが、宿泊・交通などスムーズであった。来日者を対象として事前に作成・配布した「Practical Information」を事務局スタッフ・ボランティアスタッフが携帯する事で、随時寄せられる問い合わせ(交通・地理など)に的確に答える事ができた。

### (3) 啓発および人材育成(NGOへの参加促進)活動

#### 第21期関西NGO大学「世界とよくつながるために私ができること」

期間：2007年9月~2008年2月

運営委員会

校長 藤野 達也((財)PHD協会)

副校長 浜本 裕子((財)大阪YMCA)

運営委員 荒川 共生((特活)アジアボランティアセンター)、稲垣 文拓(修了生)、稲永 学(修了生)、岡 佑里子(修了生)、岡部 達彦(修了生)、片岡 法子(修了生)、佐久間 量子(修了生)、田中 綾(修了生)、篁 正康(修了生)、土屋 佳寿子(修了生)、中野 貴行(修了生)、藤岡 直子(修了生)、松田 洋子(修了生)、三浦 弘志(修了生)、三好 力(修了生)、山下 奈美(修了生)、藤井 久美子(修了生)、阪中啓太(修了生)

会計 大村 摩也子(修了生)、竹安裕美(元関西NGO協議会職員)

第1回 2007年9月22日~23日

「ようこそNGO大学へ 国際協力ことはじめ」

長畑 誠さん いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク代表

服部 隆志さん アーユス関西=仏教国際協力ネットワーク

吉田 有希さん (特活)インドマイトリの会

西岡 良夫さん ウータン・森と生活を考える会

森本 のり子さん (特活)テラ・ルネッサンス

参加者：26名

第2回 2007年10月13日~14日

「アナタハ クミコマレテイル～グローバル経済のからくり」  
佐久間 智子さん (特活)「環境・持続社会」研究センター  
参加者：27名

第3回 2007年11月17日～18日  
「美しい国」に生まれて～私の生活と政治の関係」  
清水 耕介さん 龍谷大学国際文化部准教授  
参加者：32名

第4回 2007年12月15日～16日  
「メディアが変える私たち、私たちが変えるメディア～情報を読み解く力が社会を変える」  
広河 隆一さん フォトジャーナリスト、DAYS JAPAN 編集長  
参加者：46名

第5回 2008年1月19日～20日  
「世界を動かすあなたのこだわり ～多様な実践に学ぶ」  
坂西 卓郎さん 水俣病センター相思社 修了生  
中西 宣夫さん 代島 裕世さん サラヤ(株)  
下之坊 修子さん 映像発信てれれ  
参加者：40名

第6回 2008年2月16日～17日  
「私の思いをカタチにする～気づき、学び、そして行動へ」  
グループ発表  
田中 晶子さん 企業管理職、カウンセラー 修了生  
中尾 秀一さん (財)アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部 修了生  
湯川 まゆみさん NPO SEIN 代表 修了生 元運営委員  
参加者：30名

開催地：第1回～第6回すべて小林聖心女子学院口ザリオヒル(兵庫県宝塚市)

- ・21期より会計は特別会計を組み、実施した。また昨年に引き続き運営全般も事務局の協力を得ながら、運営委員を中心に行った。
- ・多くの参加者と助成金により、黒字を計上できた。
- ・広報チームを組み、従来以上の宣伝に努め、加盟団体割引などの工夫も加え、多くの参加者を得ることができ、修了生は25人となった。
- ・多くの関西 NGO 大学修了生が発題を担当し、20年を超える歴史とその人材の輩出を感じられた。
- ・各回の流れを意識し、最終的に行動につながる構成をとり、グループ発表と今後の活動につなぐことができた。
- ・運営方法のマニュアル化を行ってきたが、より一層の進展により、事務作業が特定の人に集中しないのでできる体制をめざしたい。
- ・第4回の広河さんは集客力があり、その後の継続参加につながった。(報告：藤野 達也)

#### 講師紹介

龍谷大学経済学部「特別講義 国際 NGO 論」

期間：2007年9月～2008年1月(後期)

紹介講師：

- |                                     |             |
|-------------------------------------|-------------|
| ・(特活)アクセス - 共生社会をめざす地球市民の会 -        | 野田 沙良       |
| ・(特活)アジアボランティアセンター                  | 荒川 共生       |
| ・(特活)AM ネット                         | 神田 浩史       |
| ・(財)大阪 YMCA                         | 浜本 裕子       |
| ・日本国際飢餓対策機構                         | 清家 弘久       |
| ・(社)日本国際民間協力会                       | 折居 徳正、久原 飛鳥 |
| ・(財)PHD 協会                          | 藤野 達也       |
| ・(特活)関西 NGO 協議会個人会員(イラクの子どもを救う会)    | 西谷 文和       |
| ・(特活)開発教育協会                         | 佐藤 友紀       |
| ・フェアトレードサマサマ                        | 小吹 岳志       |
| ・(特活)CODE 海外災害援助市民センター              | 村井 雅清       |
| ・(特活)テラ・ルネッサンス                      | 鬼丸 昌也       |
| ・(特活)関西 NGO 協議会個人会員(コボレトヨロッパ・オザパトリ) | 山本 奈美       |

薫英女子短期大学児童教育専攻 「こどもと外国語」

期間：2007年4月～7月（前期）

紹介講師：

- ・(特活) アジアボランティアセンター
- ・(財) 大阪YWCA
- ・日本国際飢餓対策機構

今里 拓哉  
宮崎 佑  
山本 和弘

京都光華女子大学「集中講義 NPO/NGO 入門」

期間：2007年8月、9月（集中講義）

紹介講師：

- ・(特活) AMネット
- ・(特活) アクセス - 共生社会をめざす地球市民の会
- ・(特活) アジアボランティアセンター
- ・日本国際飢餓対策機構
- ・(特活) 関西 NGO 協議会個人会員（イラクの子どもを救う会）
- ・(特活) 開発教育協会
- ・(財) 京都YWCA
- ・(社) 日本国際民間協力会
- ・(特活) テラ・ルネッサンス
- ・(特活) 関西 NGO 協議会個人会員（マイチケット(株)）

三輪 敦子  
大塚 彰、廣瀬 昌代、田中 雅親  
荒川 共生  
清家 弘久  
西谷 文和  
佐藤 友紀  
山本 知恵  
折居 徳正、笠原 亜希  
鬼丸 昌也  
山田 和生

帝塚山学院大学「集中講義 NGO・NPO 論」

期間：2007年9月、12月（集中講義）

紹介講師：

- ・日本国際飢餓対策機構
- ・(財) PHD 協会

清家 弘久  
藤野 達也

その他講師紹介

国際協力コンソーシアム （特活）関西 NGO 協議会個人会員  
オムロン（株）大阪事業所 ポレポレスタジオ

中田 豊一  
木川こずえ

講師派遣（関西 NGO 協議会スタッフの派遣）

榛木 恵子：京都光華女子大学、薫英女子短期大学、帝塚山学院大学、龍谷大学、大阪市立大学大学院

瀬良 香織：オムロン(株)大阪事業所

その他、委員など

榛木 恵子：大阪府総合計画審議会委員、外務省独立行政法人評価委員会委員 国際協力機構分科会委員

・2007年度も、引き続き短期大学、大学、大学院において、主に加盟団体関係者で構成されたユニット型講師をおこなった。グローバル化による格差を増長させる国際社会の現状とシステム、海外、国内の課題解決に取り組むNGOの理念と活動について、ワークショップ、ディスカッション、ビジュアル教材を用いて講義をおこなった。

・講義終了後のアンケートには、「新たな視点において物事を見る機会が得られた」「中身の濃い授業で有意義であった」との感想が寄せられている。

・学生 NGO の組織強化セミナーに講師紹介を行うことから、学生 NGO の抱えている課題を理解する機会となった。

・学生 NGO の組織強化セミナーの企画相談対応、講師紹介を通して、学生 NGO との交流を深めることができた。

・コーディネーター（事務費）の経費確保は難しく、事業経費のバランスについては、改善されていない。

#### NGO-JICA 連携による実践的参加型地域開発コース

水俣・滋賀県甲良町・神戸へのフィールドワークや紛争解決・貿易ゲームなどのワークショップを交えながら、研修員各自の地域開発プロジェクトにおける経験を踏まえ、活発な意見交換がおこなわれた。また、本年度より加盟団体の中堅スタッフにサブファシリテーターとして研修運営に携わっていただいた。

研修期間：2007年11月6日（火）～2007年12月21日（金）45日間

研修員：ネパール、インド、フィリピン、インドネシア、パプアニューギニア、モザンビーク、エチオピア、ニジェール、ドミニカ共和国、イエメン（10カ国）の NGO スタッフ、行政機関スタッフ計 13 名

主な研修場所：独立行政法人 国際協力機構(JICA) 大阪国際センター

ファシリテーター：

・長畑 誠さん いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク（あいあいネット）

・三輪 敦子さん （特活）AM ネット / 世界人権問題研究センター研究員 / 龍谷大学非常勤講師

サブファシリテーター：

・高垣 隆博さん （財）PHD 協会



- ・今里 拓哉さん (特活) アジアボランティアセンター
- ・宮下 和佳 (特活) 関西 NGO 協議会

#### DVD「私たちの暮らしと世界のつながり」の作成、頒布

グローバル化が進む中で、貧困や飢餓といったグローバル・イシューがどのように引き起こされているのか、またその構造の中で日本の生活はどういった位置にあるのか、といった内容を、画像や図を交えながらわかりやすく説きおこす DVD を作成した。企画から制作まで一貫して松下電器産業株式会社(社会・文化グループ)との協働により実現した。

完成した DVD は、NGO/NPO・教育機関(小学校~大学)・労働組合・企業・国際機関を始めとする方々に頒布している。

企画・出演：神田 浩史さん (特活) AM ネット、関西 NGO 協議会提言専門委員

出演：小酒井 梢子さん 神戸大学国際協力研究科修士課程、(特活) 関西 NGO 協議会ボランティア

画像・図表協力：(特活) AM ネット

- ・(社) アジア協会アジア友の会
- ・日本国際飢餓対策機構
- ・WFP 国連世界食糧計画
- ・荒川 共生 (特活) アジアボランティアセンター
- ・佐久間 智子 (特活)「環境・持続社会」研究センター
- ・峠 隆一
- ・藤本 伸樹 (財) アジア太平洋人権情報センター
- ・山本 愛 (特活) 関西 NGO 協議会個人会員

#### その他

- ・相談対応

2007 年度は NGO 相談員を受託することができなかったが、これまで同様に市民や NGO からの問い合わせや相談に応じた。近年は、立ち上げて間もない団体や学生 NGO からマネジメントに関する相談が多くなってきた。長年の相談対応の経験を蓄積し、ひとつひとつの相談に丁寧に対応することを心がけている。

- ・ウェブサイトでの情報発信

加盟団体への広報協力の一環として、当会のウェブサイトを通じて、加盟団体のイベント・セミナー・スタディツアーの情報や人材募集情報を掲載した。